

亜細亜美術協会ニュース

編集発行責任者：一般社団法人亜細亜美術協会 理事長 高田 哲雄

〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-2-10 3F

TEL・FAX 0422-27-5789 [HTTPS://agenten.jp/](https://agenten.jp/)



東京都美術館正門から見た亜細亜現代美術展会場

目次

- ◆ 第59回展を振り返って P1
- ◆ 「展覧会講評」中野 中先生 清水康友先生 P2
- ◆ 受賞者の言葉 P3~6
呂忠平先生による「書・水墨画実演」アート・パフォーマンス P6
- ◆ 2024 協会活動 P7, P8
- ◆ 同人の展覧会報告 P9, P10 事務局からのお知らせ P10
- ◆ 2024年展覧会予定 P11

第 59 回展を振り返って

皆様、本年の第 59 回亜細亜現代美術展、第 17 回亜細亜アート展へのご出品とご協力大変ありがとうございました。

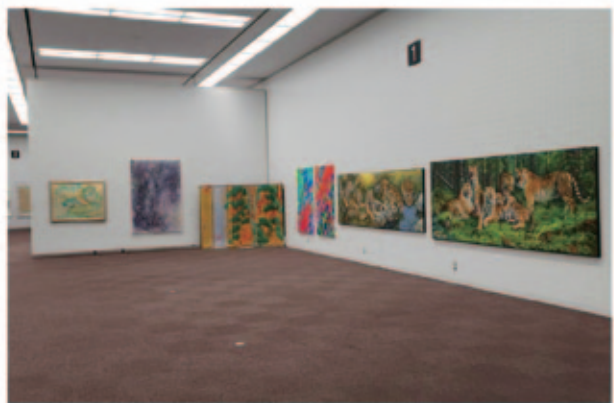
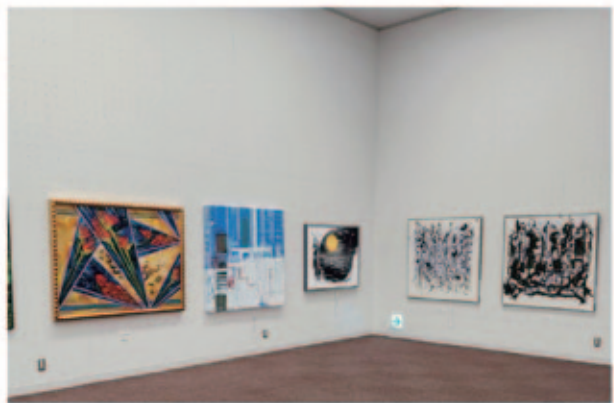
お陰様で全体の出品数は昨年に比べておよそ 16% アップとなりました。さらに個性あふれる作品が一段と増えたことに感激しております。また

本年は当協会呂忠平副理事長が 5 月上海に『呂忠平美術館』を、10 月ユン・ソベ副理事長が九十九里浜刑部岬に『風の色美術館』を開設されました。

これを機会に更なる芸術の向上と国を超えた一層の文化交流が深められることを切望いたします。今回のすべての出品者の皆様と、ご協力いただいた関係各位様、及びご高覧いただいた皆様に心より御礼申し上げます。



亜細亜美術協会 理事長 高田 哲雄



【展覧会講評】中野 中先生 清水康友先生

亜細亜大賞 「吉祥」油彩 油彩 200号 呂 忠平

虎の一族が、森林につつまれた一隅の石に囲まれた水場にやってきた。子供の2頭は夢中になって水を飲み、親の2頭はゆったりと体を休め、一頭は首をあげて辺りの気配をうかがっている。黄の地に黒の横縞の肢体に秘められた、しなやかなパワーを感じさせる。その6頭



の構成が横長の画面いっぱい展開する。森林の向こうから陽光が射してくる。今日一日の、そして会の発展に己も含めて、「吉兆」を祝す作品とした。
(評：中野 中)

文部科学大臣賞 「流れのまま」(墨彩) 小椋 紫仙

正方形の画面に心地良いリズム感を持って墨線が自在に走る。まるで上方から下方へ落ちる水流の様な動きを見せるが、墨線は所々で途切れ横に走り、上方へ戻る等多様な姿を見せる。墨の濁りが画面のアクセントとなり、淡いブルーグレーの飛沫が墨線の動感を助長する。一見前衛書の様だが、肥瘦のある墨線と墨のにじみを生かし、平面作品として描出した。永年書を研鑽し、墨の効用を熟知した作者ならではの画面を創出した。
(評：清水 康友)



東京都知事賞 「月輝く街明かり」墨彩 F50 大波天久



方形の画面に墨による黒く大きな円を配し、その中に夜の都会の景を俯瞰して捉えた斬新な作品。夜空に掛かる大きな黄色の月が地上を照らし、小さな円が星の様に散在している、眼下に広がる都会の街は、人工の照明と月明かりにより美しく煌めき、賑わいを感じさせる。墨彩の墨の濃淡による抑揚感に加え、円型を重ねた構成と、それを取り巻く黒とグレーの流れる様な不定型が、静かな画面に動感をもたらした。
(評：清水 康友)

受賞者の言葉

「流れのまま」日本画 墨彩 120×120 文部科学大臣賞 小椋 柴仙

この度、文部科学大臣賞を頂きました事に、只々、驚きと感激で胸がいっぱいでした。これもひとえに諸先生方のお力添えと心より御礼を申し上げる次第でございます。長い間、水彩画を出品して参りましたが、ここ数年は、「墨」と「岩塩」の中で起こる滲みの世界を表現してみようとソルトアートを出品させて頂いております。これからもいろんなジャンルで表現出来るように精進してまいりたいと存じます。亜細亜美術協会がテーマとする「亜細亜から世界へ」を掲げる芸術の世界が益々広がっていく事を願い、多民族とのさまざまな交流も今はとても楽しみにしております。謝謝（作品画像はP2に掲載）

「老松に鳶図」日本画 6曲屏風 亜細亜芸術賞 中嶋虎威

この度は、亜細亜芸術賞を頂きまして、誠にありがとうございました。諸先生方に心より御礼申し上げます。第45回に初めて応募して以来続けて出品して、現在に至っております。ジャンルを問わない亜細亜現代美術展は、多様な作品の中で、自由に創作活動ができる素晴らしい場であります。有難いことです。今回の作品は、大自然の中、はかなくて美しい生命、長くもあり短くも思える時の流れを、緑の松、鳶紅葉、銀箔の滝、白黒の鶴鴿をもって表現しました。老松は、私自身かも知れません。これまで支えて頂きました皆様への感謝の図でもあります。高齢の身となりましたが、この度の受賞で元気を頂き、残された時間、一層の精進をもって、表現できる幸せをかみしめたいと思っております。最後にこの素晴らしい亜細亜現代美術展に、アジアから、世界から多くの人々が集い、創作の喜びを味わって頂けることを、願ってやみません。



「風が吹いてくる」油彩 F80 亜細亜美術協会国際賞 妻夫木 敏明

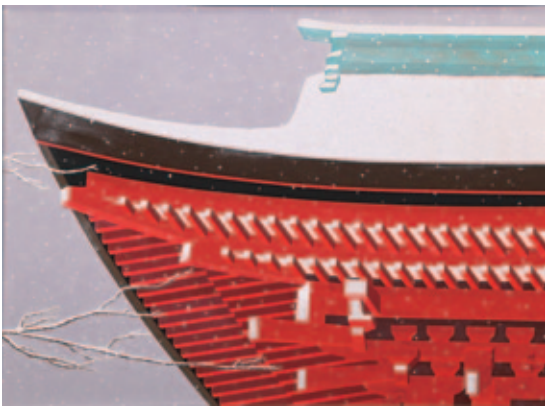
このたび亜細亜美術協会国際賞を拝受し心より有り難く思っています。また、会の皆様にはいつも温かくご指導いただき感謝しております。今回は、この数年、私たちがコロナ禍で困難な生活を強いられながらも、様々な努力を重ね、普通の暮らしに戻れる明るい兆しが、やっと見えてきたというイメージを「風が吹いてくる」という画題に託して制作に取り組みました。表彰式で高田理事長から「作品が明るくなってきたね」と言葉かけをいただきましたが、まさにコロナ終息後に「新しい風が吹いてきて明るい情景が広がる」ところを表現したかったので、その意図を汲んでいただき嬉しく思いました。以前、表彰式で審査員の

中野先生が「うまく描こうと思う人はいっぱいいる。技術的に自分より上の人も、またその上の人もある。しかし絵には答えがない。正解はない。中味は深い。自分を深めていくしかない。」と講評されたことが、今でも深く心に刻まれています。その意味を噛みしめながら、これからも湧いてくるイメージを、緊張感と不安を味わいながら表現していきたいと思っています。



「雪」 日本画 F50 蘇州市美術協会賞 岡田 悦子

この度は蘇州市美術協会賞を頂きまして有難うございました。「雪」は下鴨神社の桜門に降る雪を描いた作品です。糺の森を通過して朱色の門をくぐるとこの世とあの世の境界線のような厳粛な気持ちになります。その門を一度描いてみたいと思ひまして今回出品させて頂きました。私の中畠日本画学院にお世話になりまして二十二年目に入りました。先生に教えを頂き乍ら仏像や神社仏閣を中心に描いて参りました。それは家庭内や職場で忙しい日々を過ごす中、全く別世界の道が聞けて癒しと励みになって来たからだと思ひます。そんな思い入れのある作品に対しまして今回このような賞を頂きました事は身に余る光栄に思ひます。これからもアジア展をより多くの方に知って頂き沢山のファンを増やせる事を心より願っております。ありがとうございました。



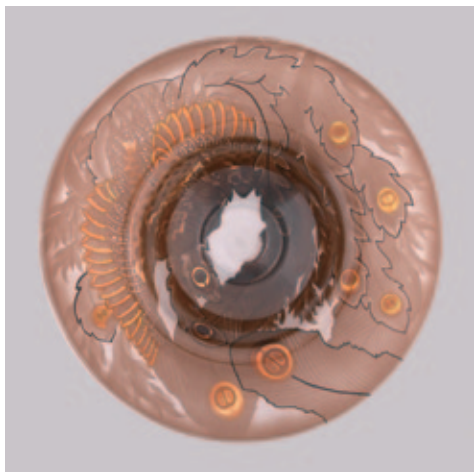
「アルプスの屋下がり」 日本画 P30 三友国際文化投資財団賞 榊由佳

第59回亜細亜現代美術展におきまして、このような素晴らしい賞を頂きました事に心より感謝申し上げます。今回の作品は、去年の夏歩いたスイスアルプスの雄大且つ長閑な景色を描いたものです。私事ですが、スイスは数十年前に家族で住んだ思い入れ深い国であり、街並みも山々も大好きでした。いつか描けたらと思ひてはみるもののヨーロッパの風景を日本画としてどう表現したらよいものやら、又私の拙い技術では到底無理なのではと手を拱いていました。この度長年の想いをやっと実現することができ、自己満足ながらもアルプスの山々の空気感を多少は表す事ができたと嬉しく思っています。その作品を、伝統ある美術展に出展して賞まで頂戴した事はまるで夢のようです。この場をお借りし、美術協会運営のためにご尽力下さっている先生方と、日本画にいつも真摯に向き合い温かく御指導下さっている中畠先生に、深く御礼申し上げます。



「鳳」 ガラス 7,5 × 45 南京博物館賞 柏木 眞菜

この度は南京博物館賞をいただき、大変光栄に存じます。近年、世界的に取り上げられる



ことの多くなったジャポニズムの中でも、私は特に葛飾北斎に魅了されたひとりです。北斎の描く生き生きとした斬新な表現と独特の構図を題材として研究しています。また、メイ・クラフトでガラス工芸を学びながら、阿部軍吉先生の漆講座でご指導を賜る機会に恵まれ、ガラスを削るサンドブラスト技法にガラスへ色付けする漆技法を組み合わせることで、作品に重厚な色彩と力強さを加えることができました。亜細亜美術協会展では、日・中・韓、各国の皆様の作品から多くの刺激を受け、美術の豊かさを実感して

おります。来年の第60回展にもぜひ参加させていただき、文化芸術活動を通して国際交流を続けていきたいと考えております。最後に、亜細亜美術協会執行部の皆様のご尽力に感謝申し上げますとともに、益々のご発展をお祈り申し上げます。

四季草花図 日本画 二曲一隻 (155 × 140) 新人賞 岩田京子

夫の実家のお蔵に眠っていた無地の金地絹本屏風で制作しました。『四季草花図』金地絹本に描くのは初めての事でしたので、ドキドキワクワクの制作でした。二曲の中に四季折々花を配置するのに時間がかかりました。枝垂れ桜と紅葉以外は今まで何らかの形で本画にしたことのあるお気に入りの草花たちです。草木花々それぞれの葉っぱや茎の緑色をいかにそれらしく表現するか！！今回の作品制作のために 沢山の種類の緑色系岩絵具との出会いがありました。見てくださる方が明るく 楽しい気持ちになってくだされば幸いです。新人賞を頂いたおかげで より多くの友人知人にこの金屏風を紹介できましたこと嬉しく思っております。



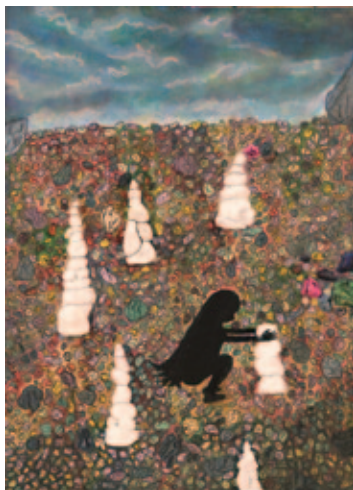
「yuga yuga」 アクリル アート展クサカベ賞 宮島 侑南

この度はクサカベ賞をいただきましたこと、大変嬉しく思っております。私の



作品は、インド哲学のなかの宇宙論に出てくる「ユガ」を題材にしており、そこからタイトルをサンスクリット語である【yuga】"ユガ"にしました。作品の意図が伝わるか不安でしたが、このように評価いただけましたこと、安堵と喜びでいっぱいです。この度の受賞を胸に、今後の制作の励みにして参りたいと考えております。

「賽の河原」アクリル アート展秀作賞 佐々木 侑星



この度は、このような素晴らしい賞を頂けたことに感謝申し上げます。私は誰も真実を知らず、誰も見た事の無い子供達の向かう地獄を自分なりに解釈し、絵にその世界を表現しました。親の供養の為に石を積み、鬼に崩される。そしてまた石を積む。沢山の穢れた石は積まれた事で白くなる。しかし崩れれば石はまた穢れる。救いの地藏菩薩は現れず、永遠にこれを繰り返す。これは私の想像であり幻想であり妄想です。この妄想は誰も否定する事はできないし、誰も肯定する事もできないでしょう。何故なら誰も真実を知らないから。私は今後も想像し妄想し、それを作品にしていきます。

呂忠平先生による「書・水墨画実演」アート・パフォーマンス

第59回展開催期間中、9月29日と10月1日の2日間、会場内にて当協会副理事長 呂忠平先生によるアート・パフォーマンスが行われました。昨年につき

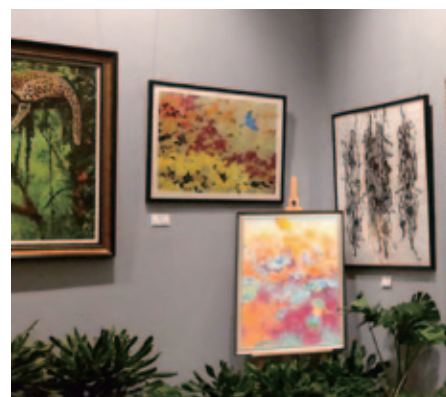


再来場された方、海外から旅行で来られた方、翌日帰国するドイツの方にも「最高の思い出」と喜んでいただき、80名を超える参加者で盛況でした。参加された多くが「来年もぜひ来ます」と言われ、大好評のイベン



2024 協会活動

呂忠平美術館オープン記念 「2024 亜州現代美術展上海展」 共催



5月18日上海市松江区にオープン。

当協会出品者：呂忠平、湯澤幸子、安藤正之、宗雪孝夫、高田哲雄、黄実、米田浩二、呂娟、竹内郁子、小椋紫仙、竹内華抄、中寫虎威、本田佐由里、土屋英子、澁谷穆子、村井利枝子、吉本佳代、廣松園子、藤文浩、大波天久、遠山正四、（亜細亜美術協会同人・順不同）

「呂忠平美術館オープンイベントに参加して」

亜細亜美術協会メンバー達は、オープニング前日の17日に自身の作品を手荷物として美術館に持ち込み、当日のうちに無事に展示を終えた。翌18日昼前に美術館に到着し、呂先生の数十点の大作や展覧会出品作品を鑑賞した後、オープニングテープカットに参加した。その後、広い美術館内や中国式庭園を見学した後、夕方展覧会場で晚餐会が始まった。亜細亜美術協会副理事長の呂忠平先生は主役として、会場全体を廻り、参加者と親睦を深めた。亜細亜美術協会メンバーからは、10数名の参加があり、旅行を楽しみながら帰路に就いた。（文：遠山正四）



ユン・ソベ「風の色美術館」ホテル棟オープンイベント

「第3回 2024年 ASAHI 国際美術交流展」参加



会期：10/月31日（木）～ 11月/17日（日）

会場：風の色美術館 千葉県旭市上永井124

当協会出品者：ユン・ソベ、高田哲雄、呂忠平、秋山けい子、安藤正之、小椋紫仙、加藤タエコ、宋恩玉、澁谷穆子、柏木真菜、廣松園子、吉本佳代、村井利枝子、藤文浩、呂娟、黄実、遠山正四、（亜細亜美術協会同人・順不同）

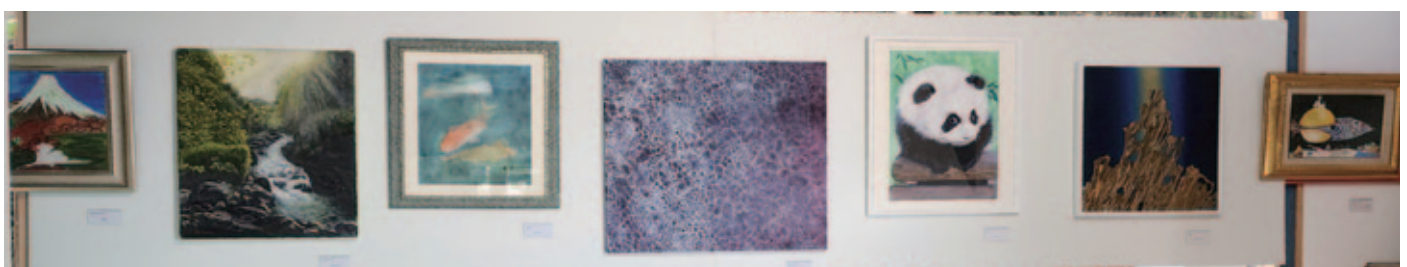
今後の展覧会予定「へび展」（干支）12月19日（木）～2025年2月/16日（土）

「第4回 2025年 ASAHI 国際美術交流展」 会期：2025年8月開催予定

風の色美術館オープンイベントに参加して

初日は午後3時から、芝生の盛土をステージにして、風の色美術館オーナーで亜細亜美術協会副理事長ユン・ソベ先生の挨拶があり、次に高田哲雄亜細亜美術協会理事長が祝辞を述べた。その後ステージ上で即興絵画パフォーマンスが行われ、その横で各出演者が楽器演奏や歌唱を披露して参加者を楽しませた。「第4回 2025年 ASAHI 国際美術交流展」を鑑賞した後、夜は、2階のベランダ付き食堂で晚餐会を楽しみながら作家同士で親睦を深めた。翌日は、早朝の日の出を岸壁から見た後、韓国の作家の皆さん約20名と一緒に、スケッチをしに銚子の犬吠埼灯台に向かった。私は晴天の恵まれた天候のもとで、灯台周辺の景色を1枚描いたが、韓国の作家さん達は手慣れた描写力で何枚も上手に描いていた。ユン・ソベ先生一行は昼食後、更に港の銚子マリーナへ行きスケッチを競い合った。韓国作家とのひと時の有意義な美術交流でした。

（文：遠山正四）



同人の展覧会報告



アート・キャピタル・サロン展 選抜出品

会期：2月14日(水)～2月18日(日)
会場：パリ グラン・パレ 出品者 呂絹

中島 虎威 展 日本画(理事)

会期：2024年4月8日(月)～13日(土)
会場：画廊宮坂

中央区銀座7-12-5 銀星ビル4F



大森 弘 作品展

油彩・水彩 (名誉会長)

会期：2024年4月12日(金)～4月16日(火)

呂忠平の光影世界 個人画展

会期：2024年6月8日～6月14日

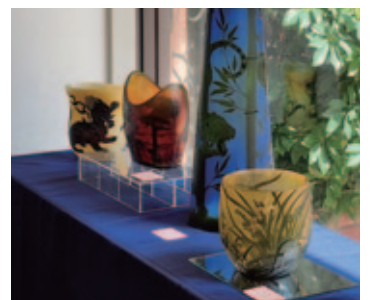
会場：中国文化センター
港区虎ノ門3-5-1 37 森ビル1F



「Glass Art 2024」 メイクラフト吉祥寺作品展



期間：6月11日(火)～15日(土)
場所：ギャラリー永谷1・2
東京都武蔵野市 吉祥寺
本町1-20-1 吉祥寺
永谷シティプラザ1F



鈴木孝個展 「和のステンドグラス展II」

期日：10月31日(木)～11月4日(祝)
会場：静岡ホビースクエア
静岡市駿河区南町18-1
サウスポット静岡 3F



書家による抽象表現展VIII

小椋柴仙

会期：11月11日～16日
会場：ギャラリー志門
中央区銀座6-13-7 新保ビル 3F
出品者：小椋柴仙 他15名

生命の繁花

呂忠平 & 藤文浩使徒展

主办机构：嘉禧国际艺术中心

期間：12月1日(日)
～15日(日)

协办机构：Fuji Art Gallery

策展人：陈思毅、卢江南

地址：上海市黄浦区北京东路99号L202(益丰·外滩源)

开幕式：2024.12.1 下午15:00



事務局からのお知らせ

第59回亜細亜現代美術展・アート展のご報告

★出品者数 131名 (昨年 122) **7.4%UP** ★出品数 168点 (昨年 145) **16%UP** ★来場者数 1,878名 (昨年 1706) **1.1%UP** ★第60回展達成目標 (出品者数 140名、出品数 180点)
●現在協会は正規事務員を常備していません。同人の運営委員会メンバーが協力して行っています。2025年は是非会員の皆様のご協力をお願い致します。事務局へのお手伝い大歓迎です、お待ちしております。

2025年展覧会予定

第60回記念亜細亜現代美術展に向けて

今年も第59回亜細亜現代美術展、第17回アート展が盛況のうちに終わることが出来ました。ひとえに沢山の出品を頂きました会員の諸先生の皆様には心より深謝申し上げます。年々出品作も増え、海外の方々からも亜細亜展に注目を持って頂く様になりました。「亜細亜から世界へ」のテーマが少しずつ広がりつつあります。これからも展覧会が続いていける事を有難く思っております。イベントを考えて来年は記念すべき「第60回亜細亜現代美術展」を迎えます。会員の皆様の出品は勿論のこと、沢山のお誘いを頂き、会場が賑わい盛大な作品の中、記念展が出来ますよう何卒お力添えをたまわりたいと存じます。

展覧会部長 小椋紫仙

●「第60回記念亜細亜現代美術展」

同時開催 「第18回亜細亜アート展」

会 期：2025年9月28日（日）～10月5日（日）

申込期限：8月31日 搬入日：後日お知らせします。

●「アジア太平洋美術協会展」

会 期：2025年4月23日（水）～29日（火）

会 場：韓国ソウル 詳細については後日お知らせします。

●「2025日韓友好展」（仮題）

会 期：申請中（12月発表）

編集委員長：遠山正四 編集委員 高田哲雄 村井利枝子

一般社団法人 亜細亜美術協会

事務局：〒180-0004 東京都武蔵野市吉祥寺本町2-2-10 3F

Tel & Fax: 0422-27-5789 Mail: asia3art@js7.so-net.ne.jp

<https://www.agenten.jp/>